

消化器外科 I での 6 週間の選択実習において、院外実習として市立札幌病院と天使病院で 2 週間ずつ実習させて頂きましたので、その内容についてまとめさせていただきます。

市立札幌病院



市立札幌病院は 32 科もの診療科をもつ大規模な病院です。救命救急センターを中心とした急性期医療や、道央圏で唯一総合周産期母子医療センターの指定を受け、新生児・周産期医療に力を入れています。

実習内容としては手術見学がほとんどであり、症例は胃がん・大腸がん・肝細胞がん・胆石症・乳がんなどがありました。肥満や糖尿病、透析管理中など、合併症を持つ患者も多く、大学病院と似た印象でした。難しい症例に対しての術式の検討や、その後の病棟管理について学びました。

天使病院



天使病院は大学や市立病院と比較し小規模な病院ですが、小児外科と新生児・周産期医療を強みとしています。実習内容は、手術見学・外来見学、またレクチャーなどもして頂きました。手術症例は、小児の鼠径ヘルニア、臍ヘルニアが多く、他にも胃がん、大腸がん、乳がんなどもありました。手術見学の際には助手として手術に参加させて頂き、解剖や手術手技について厚くご指導頂きました。レクチャーも参加型の形式が多く、自分で考えながら学ぶことができました。

今回、2 週間というまとまった期間で外病院実習ができたため、その病院の得意とする疾患について理解を深められたり、各病院での手技の違いについて考えたりすることができました。また、各病院でスタッフの一員のように参加させて頂き、外科医についてより知ることができましたし、より強く興味を持ちました。このような貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。

選択実習：消化器外科 I の総括

大木 聡悟

私が長期実習で消化器外科 I を選択したのは、I 外科の医局にパワーを感じたからである。5 年次の実習では、大学病院の病棟を中心に、手術の見学、毎朝のカンファレンスなどで大変な印象もあるが、マウスの手術、天使病院での実習、ラパロトレーニング、縫合結紮練習など I 外科ならではの内容も豊富である。その中でも、私はマウスの手術に非常に面白みを感じたので、6 年次の選択実習で取ったら、やらせてもらえないだろうかと思い、相談してみたところ OK の返事をいただき、是非やりたいと選択した。

6 年次の選択実習での I 外科のプログラムの基本は”大学 1 週+関連病院 4 週+大学 1 週”だが、私は週 2 回動物実験室でマウスの手術を行い、残りの 3 日を病院での実習をいう形のプログラムを組んでいただいた。自分のやりたいことがあれば積極的に受け入れてくださり、5 年次とは全く違う、自由度の高いプログラムとなっていた。

また、学会の参加にも非常に積極的にサポートして下さり、全国学会の雰囲気味わえる貴重な機会をいただいた。

6 週間の実習を終えてみて、4 週間（週 3 日ずつ）まわった天使病院では、長期間 1 つの施設に腰を据えての実習であったため、先生方との人間関係を築くことができ、非常に実習を楽しく高いモチベーションで実習できたので、1 施設しかまわらなかったメリットだったかもしれない。特に、天使病院は学生にも積極的に役割を与えてくださるので、チームの一員として参加できた。

マウスの実験では、心移植の手技に挑戦した。ハーベストの大動脈と肺動脈を、レシピエントの大動脈と下大静脈にそれぞれ吻合する手術であるが、顕微鏡下での繊細な手技のため、非常に難しかった。初めて、血管吻合を完遂したときには合計で 6 時間近くもかかったが、結果は流出路狭窄となってしまう失敗。作業中は慣れるまで非常に集中力を使うため、1 日に 6 時間をやれば、もう手術する気にはならない。だが、解剖、手術手技の理解が深まったり、ちゃんと頭に入ると、力の抜きどころがわかり、手術スピードも上がるため、疲労もそれほどではなくなった。初成功を納めた時には、計 2 時間半ちょっとぐらいで終わることが出来た。ミクロな世界での手術ではあったが、臨床の場でのマクロの手術からも勉強することが多く、外科において手術を観ることの大切さを肌で感じた。

将来外科系を志望する私にとって、非常に有意義な 6 週間であった。自分の希望に沿った実習を組めるたくさんの選択肢が魅力的だった。

最後になりましたが、6 週間面倒を見て下さいました先生方、本当にありがとうございました。

4月から5月の6週間、北海道大学第一外科にて実習をさせていただきました。

本実習では大学で3週間、アメリカ Cleveland Clinic で2週間、そして砂川市立病院で1週間の実習をさせていただきました。

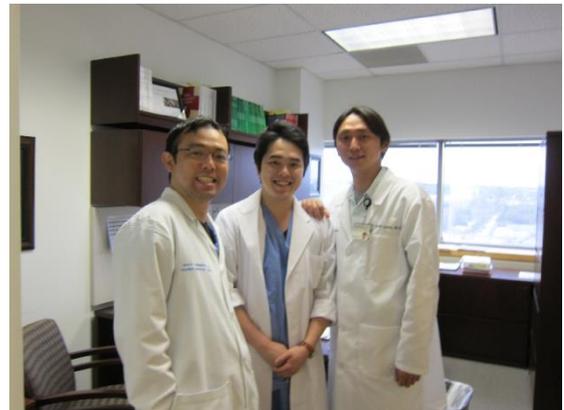
大学特有の難症例の見学をする一方で、一般の病院に多い外科的な治療の見学をさせていただき外科医は大学卒業後どのような道を歩み、キャリアを積んで行くのか漠然と将来設計する機会をいただきました。

6週間の実習の中でアメリカはオハイオ州、Cleveland Clinic で2週間の実習をさせていただきました。輸血、透析、CABG、心臓移植の発祥の地とされる病院で米国ベスト病院ランキングにおいてベスト4に入る病院です。この病院では肝臓移植手術をメインに見学させていただきました。日本では生体肝移植がメインに行われていますが、アメリカでは脳死肝移植がメインに行われています。脳死肝移植は日本全体で年間40症例程度なのに対しこの病院では年間120症例行われていてほぼ二日に一回のペースで行われており脳死肝移植は一般的な治療のひとつとして考えられている節がありました。

「死」ということに対して根本的にハードルが高く、またアメリカでの臓器提供は薬物乱用による若年死に多いという特徴もあり、日本国ではアメリカの水準に追いつくにはかなり時間がかかり、抜本的な意識改革の取り組みや再生医療の発達が必須であることを深く感じました。

この二週間の滞在の中でいろんな国籍の医者と話す機会が多くありました。イタリア、中国、インドなど挙げだしたらきりがありませんが皆高いモチベーションをもっており、知識は深く仕事にたいして高い誇りを持っていることがうかがえました。またそれぞれの国において抱えている問題は日本と違うところはあれ共通する点も多く、今後の日本の医療制度の大幅な改革も必要とされる時が来るであろうことも感じました。

二週間という大変短い期間の留学でしたが日本ではなかなか見ることのできない治療をたくさん見学し、体験し、またアメリカという他国の医療世界を見学することで、日本の医療の利点欠点、長所短所を見受けることができました。そして外科において技術大国日本といわれるゆえんもわかった気がします。



六週間という短い期間でしたが、外科の魅力を五感で感じ、多くのことを学ばさせていただきました。そして外科医として生きていくには多くのことを学びその中で技術をしっかりと養っていかなければならないことを感じとることができたのはとても大きな収穫です。

お忙しい中ご指導してくださいました先生方、様々な調整をしてくださいました秘書の皆様、本当にありがとうございました。

第一外科選択実習レポート

庭野陽樹

私は選択実習 6 週間の内 4 週間という長期にわたり天使病院で実習させていただきました。天使病院は北大病院から東に徒歩 15 分程の場所にある病院です。病床数は 260 あり、周産期に力を入れており近年小児科と産婦人科と NICU 科を同じ建物に集めた周産期母子センターが作られました。またその他にも 14 の科があり、それらの科の病棟も去年新しくなりとても清潔感のある病院となっていました。



天使病院（右手前の棟が周産期母子センター）

実習の内容としましては、臨床研修室長であり、かつ外科・小児外科科長である山本浩史先生が研修医と同じように扱ってくださり、手術にも術野にたたせていただきました。外科の実習であったため実習のメインは手術見学でしたが、手術のない時間は外科の大場先生、奥村先生、研修医の山本先生、海老沼先生が様々なミニレクチャーをしてくださり、とても密度の濃い実習をさせていただきました。



ミニレクチャー

主な見学した手術は、小児の鼠径ヘルニア 5 件、成人の鼠径ヘルニア 4 件、透析のためのシャント形成術 3 件、虫垂炎 2 件、食道狭窄に対するバルーン拡張術 2 件、乳癌 1 件、臍ヘルニア 1 件、胎便性腹膜炎 1 件 でした。一番印象に残ったのは件数の多かった鼠径ヘルニアでした。鼠径ヘルニアの手術は小児と成人では原因が異なるため、手術法も違うものでした。どちらも腹腔鏡下で行いますが、小児の場合は先天性の内鼠径輪からヘルニア囊が出るため内鼠径輪を腹膜ごと結紮します。それに対して成人は加齢により腹壁が脆弱化することで、内鼠径輪以外からもヘルニア囊がでてしまうため、鼠径管後壁を人工メッシュで覆います。

今回の実習ではその他に大学病院での実習や、小児外科学会にも行かせていただき、6 週間の期間中で外科医の先生の生活をより近くで見学させていただきました。先生方の仕事に対する情熱を目の当たりにし、外科医を志望する気持ちが高まりました。6 週間お世話になりました。本当にありがとうございました。

長期臨床実習報告

平尾高行

6週間もの間、お世話していただき本当にありがとうございました。自分の将来の医師像を考える上で、この6週間は掛け替えのないものとなりました。このような機会を与えて下さった第一外科の先生方には深く感謝しております。

私は以下のようなスケジュールにて、第一外科前期の臨床実習をさせていただきました。

4/7～4/11 北大病院

4/14～4/18 天使病院

4/21～5/2 砂川病院

5/3～5/23 Cleveland Clinic

それぞれについて感想を述べたいと思います。

(1)北大病院

勉強になりました。当たり前ですが他の市中病院とは違い、珍しい症例が多いのだなということを実感しました。ただ第一週で、自分も勉強不足だったため、移植チームの回診や、その前後の話し合いの内容にあまりついていけなかったのが残念です。北大病院は最初より最後の一週間の方が勉強になるかと思いました。また、桑園での縫合実習がとても面白く感じました。また機会があれば参加させていただきたいと思います。

(2)天使病院

面白く感じました。自分は三回目の実習になりますが、やはり山本先生を初めとして皆さん面倒見がよく、また手術にて実際に手を動かし、指導してもらいながら見学することで、手術を見る視点が磨かれました。もう少し長くいたいと思いました。

(3)砂川病院

よく面倒を見ていただきました。特に柴田先生や研修医の先生方には毎日ご飯や飲みに来て行っていただいたり、ご指導していただきました。二年目の先生方が優秀で、一年目の先生によくレクチャーを開催しているのが印象的でした。また救急当直もすごく勉強になると研修医の先生方がおっしゃっていて、研修病院として魅力的だと思いました。

(4)Cleveland Clinic

自分の医師としての人生設計に強く影響を与えるものとなりました。具体的に何が良かったのかを説明するのは難しいのですが、アメリカの医療を肌で感じ、日本の医療を客観的に見つめられたことや、アメリカに限らず、世界の医師が何を考え、何を目標しているのかを知ることができた事は大きな収穫でした。それにより、自分が目指す医師像とはどのようなものか、またそのためには今、来年、5年後に、何をすべきなのか、具体的に考えるようになりました。この刺激を忘れないまま、理想の医師像に近づくべく頑張りたいとおもいます。

